

「SANBE でクリスマス！」

1 趣 旨

- ・体験プログラムを通して、親子活動の楽しさを知ってもらい、親子の絆を深めるきっかけにする。
- ・創作活動を通して、自己表現をする楽しさを知ってもらい、より充実した体験活動の促進を図る。

2 事業の概要

- (1) 期 日 ①令和3年12月11日(土)～12月12日(日)【1泊2日】
 ②令和3年12月18日(土)～12月19日(日)【1泊2日】
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 協 力 米粉 cake お菓子工房きいちご 代表 福島 光治 氏
- (4) 対 象 小学生1～2年生とその家族(幼児も可)
- (5) 参加者 ①54名(14家族) ※募集14家族、応募89名(25家族)
 ②57名(15家族) ※募集14家族、応募83名(23家族)

(6) 日程・内容

13:00	13:30	14:15	～	16:30	17:30	18:30	19:00	～	20:00	22:30	6:30	07:00	7:30	8:40	9:15	～	11:30	
1 目 (土)	受 付	は じ ま り の 会		【てづくり①】 クリスマスリースを 作ろう! 木の実やリボンを使っ て、世界に一つだけの リースを作ろう!	休 憩	夕 食	【自由参加】 はじめての マッチ体験! パーティーで 使うキャンド ルの灯りを 自分で 用意して みよう		【自由参加】 クリスマス パーティ! キャンドルの 灯りととも に、レクリエ ーションを します♪	休 息 ・ 就 寝	2 目 (日)	起 床	清 掃	朝 食	退 所 点 検		【てづくり②】 ケーキを 作ろう! 地元のケーキ屋さん の福島さんにデコレ ーションの仕方 を教えてください!	お わ り の 会

3 事業の特色

(1) プログラムデザインと企画のポイント

創作活動を通して、自己表現をする楽しさと親子活動の楽しさを知ってもらう内容としている。クリスマスリース作りでは三瓶ならではの素材を使ったデコレーションを、また、ケーキ作りではスーパーマーケットで揃えることができる材料を使ったケーキデコレーションを、それぞれ計画した。非日常感とともに日常でも手に入りやすいものを組み合わせることで、体験活動に興味を持ち、今後の親子活動の促進につながるように企画した。

(2) 運営のポイント

- ・クリスマスという雰囲気を作るため、参加決定通知を送る際に子供たちへの招待状を同封した。また当日はドレスコードを設け、クリスマスカラー(赤、緑、白)のものを身に付けて来てもらうようにした。
- ・「手作りクリスマス」をコンセプトにした事業運営を行った。その中で、例年実施しているクリスマスパーティ(キャンドルのつどいをアレンジしたもの)で使う火も手作りしようと考え、マッチで火をつける体験プログラムを新たに計画した。
- ・ケーキ作りでは、地元大田市で「米粉 cake お菓子工房きいちご」を営む福島光治様にデコレーションの講師をしていただいた。

4 参加者へのアンケート結果

(1) アンケートの集計 (%)

①令和3年12月11日(土)～12日(日)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	93	7	0	0
プログラム	86	14	0	0
運営	86	14	0	0
職員の対応	93	7	0	0

②令和3年12月18日(土)～19日(日)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	93	7	0	0
プログラム	93	7	0	0
運営	93	7	0	0
職員の対応	93	7	0	0

(2) 参加者の声

- ・ケーキ作りは、プロの指導のもとに作ることができて子供も喜んでいました。
- ・家がオール電化で火に触れる機会がないため、普段マッチに触れたことがなく、とても良い経験になりました。

- ・子供にとって色々な経験ができて良かったのはもちろんですが、親も「子供ってこんなことができるんだ!」と気づけて良かったです。
- ・一つ一つのプログラムに子供たちが興味を持って参加することができました。

5 成果と課題

《成果》

- ・2日間を通して子供たちが「楽しかった!またイベントに参加したい!」と保護者に伝えている様子が見受けられた。そのことから、親子活動や創作活動を通して自己表現の楽しさを感じ、今後の体験活動の促進を図るきっかけづくりができたと考えます。
- ・今年度から新たに計画した「初めてのマッチ体験!」の活動時間は20分間の短時間だったが、特に保護者から「普段、火を見る機会が少なくなっているため、大変貴重だった」などの反響が多くあった。そこから、最近はオール電化により火そのものを目にする機会が少ないという現状や、その現状から子供に火を扱わせる体験の場を希望する保護者の潜在的ニーズを知ることができた。

《課題》

- ・幼児のいるご家族から「未就学児の機嫌を取りながら時間通りに行動することが難しかった」というご意見を頂いた。そのご家族は、全部のプログラムにしっかり参加することを望まれていたこともあり、幼児の体力や集中力との兼ね合いに悩まれたと推測する。赤ちゃんルームの設置や余裕のある時間配分、夜のプログラムは自由参加にするなど、立案する際には工夫をしていたが、運営の際に全体への周知が十分には行えていなかった。担当者は、対象者理解を深めることや対象者から起こり得る状況とそれへの対応について、スタッフ間での情報共有を十分に行うことが必要である。



(担当：事業推進係 松葉 遥花)